

川越市立川越高等学校の学校運営に係る取組

(R9.4.1～R12.3.31)

令和 8 年 1 0 月

川越市立川越高等学校

1 背景と趣旨

本校は、大正 15 年の創立以来、川越市の発展とともに「実学教育」を礎とした教育活動を行い、令和 8 年度には創立 100 周年という歴史的な節目を迎えました。

川越市教育委員会が策定した「川越市立川越高等学校の学校運営方針」を受け、本校の使命（スクール・ミッション）を達成するため、今後目指すべき「4 つの将来像」に基づく具体的な施策と数値目標をまとめました。

本取組では、スクール・ミッションの実現に向けて「4 つの将来像」を設定しています。これらは独立したものではなく、相互に高め合う好循環のサイクルを形成することで、川越市と共に発展する市立高校を目指します。

【スクール・ミッション】

高等普通教育と商業に関する専門教育を行う川越市立の高等学校として、生徒の個性を伸ばし、地域に根ざした協調的精神を育む実践的な教育活動を通して、確かな学力や高い専門性を備え、心身ともに健全で進取の気性に富み、職業を通じて社会に貢献しようとする人物を育成します。

【4 つの将来像】

将来像 1：魅力的な教育	特色ある普通科教育と商業を重視した実学教育を行う学校
将来像 2：選ばれる学校	入試改革と生徒募集強化により受検生から選ばれる学校
将来像 3：開かれた学校	地域社会や大学等と連携し市民の期待に応える開かれた学校
将来像 4：支える基盤	充実した学校生活を支える持続可能な学校経営

2 目標期間

令和 9 年度から令和 11 年度までの 3 か年とし、毎年度末に取組状況を評価します。その後、社会の変化や進捗状況・成果などを踏まえて 3 年ごとに改訂します。

令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度	令和 12 年度	令和 13 年度	令和 14 年度	
3 年			3 年			...

3 各将来像における取組

将来像Ⅰ【魅力的な教育】特色ある普通科教育と商業を重視した実学教育を行う学校

伝統継承と多様な進路実現に向け、普通科での授業の充実、商業教育の充実や英語力の向上、商業系学科での資格取得の充実を図ります。また、先の見えない社会を生き抜く人材を育成するため、本校の特色を生かした商業系学科の改編、探究学習の取り組みの深化、ICT活用能力の育成等と併せて、きめ細かな進路指導、活発な部活動支援、さらには生徒の希望進路の実現のため、大学等への進学や就職等に向けて支援します。

(1) 3つの学科の特色を生かした教育の実践（普通科・情報処理科・国際経済科）

- ・教員進学指導力向上研修、及び進路指導研修等を通じた教員の教科指導力の向上
- ・3年間を見据えた計画的な進路情報の提供、及び生徒の自己理解の促進を図る進路指導の充実
- ・放課後、長期休業期間における進学補講講座の増設
- ・放課後自習室の設置、進路指導室・教室内の進路資料の環境整備
- ・英語力強化による英語検定合格者の増加、及び全商3種1級合格者の増加

(2) 探究活動の充実（地域連携・フィールドワーク）

- ・川越探究をテーマとし、3年間かけた仮説立案、課題解決方法の模索、発表等の探究プログラムの充実
- ・大学等と連携し、発表会等への参画
- ・地域イベント（小江戸芋パーク、川越百万灯祭り等）への参画
- ・体験的学びを深めるフィールドワーク（校外学習、企業訪問、フォトロゲイニング等）の充実

(3) 情報活用能力の育成

- ・Google Workspace、ロイロノート等のアプリを活用した授業・家庭学習の充実
- ・授業における生成AIの活用

(4) 部活動の活性化

- ・生徒募集活動と連携し、部活動の魅力を校外にアピール
- ・「部活動体験 Week」の実施

(5) 学科改編の検討

- ・時代のニーズに応じた商業系学科の改編について、教育委員会とともに検討

将来像Ⅱ【選ばれる学校】入試改革と生徒募集強化により受検生から選ばれる学校

埼玉県公立高等学校入学者選抜改革に対応し、本校への入学意欲等を重視する特色選抜の導入や川越市在住の中学生を対象とする地域特別選抜の継続といった取組を進めます。また、市内小中学校との連携による魅力発信やニーズを捉えた体験会の実施、さらにはスクール・ミッションの周知や組織的な募集活動を強力に推進することで、受検生や保護者から信頼され、選ばれる学校を目指します。

(1)入試改革への対応

- ・令和9年度入学者選抜において、普通科、情報処理科で共通選抜を、国際経済科で特色選抜を実施
- ・文化・スポーツ等に優れた川越市内生の積極的な受け入れ・育成のために、「地域特別選抜」を継続
- ・社会の変化に即した選抜方法の検証

(2)生徒募集の強化

- ・校内生徒募集組織を再編し、学校案内のデザインの刷新、学校説明会のプログラムの見直し
- ・生徒会交流事業、学校体験会等による小中学校等との連携
- ・多様で魅力的な情報発信手法を展開

将来像Ⅲ【開かれた学校】地域社会や大学等と連携し市民の期待に応える開かれた学校

地域社会や大学等との連携を進めるとともに、小中学校や市立特別支援学校との交流を推進することに加え、各種地域のイベントへの参加を進めます。また、大学との連携による出張講義や、地元企業・商店街と協力した職業教育を実施するほか、探究学習を通じて地域課題の解決に挑む授業を展開するなど、市立高校の役割を意識した地域社会と相互に高め合う「開かれた学校」の役割を強化し、市民から愛され信頼される学校づくりを進めます。

地域・大学小中学校・地元企業等との連携施策

- ・小中学校等連携：生徒会交流事業、学校体験会、ふるさと学習訪問授業等の実施
- ・大学等との連携：総合的な探究の時間や進路学習等における大学、短大、専門学校との連携
- ・地域イベント・ボランティア等：総合的な探究の時間や部活動による地域イベント（小江戸芋パーク、川越百万灯祭り等）や、ボランティア活動（地域清掃、ボランティアスタッフ等）への参画
- ・地域企業連携：地元企業と連携したイベント開発協力、インターンシップ、金融教育等の実施

将来像Ⅳ【支える基盤】充実した学校生活を支える持続可能な学校経営

生徒が主体的に学校行事に関わる仕組みづくりにより、生徒の自主性と協調性を育むとともに、生徒がより安心して学校生活を送ることができるよう、各種支援・相談体制を整えます。また、本市姉妹都市との交流により国際的視野などを身に着ける取組を進めます。教職員の働き方改革を進め、教育活動の質を高めるとともに生徒指導の充実をはかることで充実した学生生活を支えます。さらに、地域ニーズに応える中高一貫校の研究を進めるなど、時代の変化に対応した持続可能な学校経営の基盤を構築します。

(1)国際交流の推進

- ・米国オレゴン州セーレム市「ノースセーレム高校」との相互訪問交流

(2)生徒会活動の充実

- ・文化祭、体育祭等の生徒主体による企画・運営支援、及び生徒の意見・要望を反映する校内体制づくり
- ・生徒会活動の成果を地域住民や中学生へ効果的に発信する広報活動の推進

(3)生徒一人一人に対応する生徒指導の実践

- ・教室環境整備、相談機能の充実、部活動奨励による安心・安全な学校環境づくり
- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの緊密な連携
- ・社会情勢や時代に変化に対応した校則等の定期的な見直し

(4)働き方改革と人材育成

- ・ICT 活用や業務効率化による超過勤務の解消
- ・教職員研修を通じた指導スキル向上と人材育成の推進

(5)中高一貫校の研究

- ・市内全体の学力向上及び学習意欲向上を目指し、本校敷地内への「併設型中高一貫校」の設置の可能性を教育委員会とともに研究

本取組における数値目標を一覧化し、学校運営の点検・評価（PDCA サイクル）に活用します。

将来像	関連項目	評価項目・指標	基準値 (R7 実績)	目標値
Ⅰ 魅力的な教育	Ⅰ (1)	学校評価アンケートの項目「教科指導において、生徒にとってわかりやすい授業が行われている。」の肯定率	78.5%	85%
	Ⅰ (1)	進学補講講座数	12 講座	20 講座
	Ⅰ (1)	学校評価アンケートの項目「学校は適性や希望を十分把握して適切に進路指導を行っている。」の肯定率	89.6%	95%
	Ⅰ (1)	実用英語技能検定 2 級合格者数	37 人	50 人
	Ⅰ (1)	全商 3 種 1 級合格者数	48 人	60 人
	Ⅰ (1)	国公立・難関私大合格者数	4 人	10 人
	Ⅰ (2)	探究活動における生徒満足度 (実施後アンケートによる)	-	80%
	Ⅰ (3)	学校評価アンケートの項目「授業や家庭学習等でタブレットを効果的に活用できている。」の肯定率	94.7%	95%
	Ⅰ (4)	生徒部活動加入率	89.0%	90%
Ⅱ 選ばれる学校	Ⅰ (4)	部活動体験への参加部活動数	12	15
	Ⅱ (1)	入学者選抜実施結果（学力検査・調査書点、面接の評価状況等）の検証	-	年 1 回
	Ⅱ (2)	学校案内及び学校説明会の抜本的見直し	-	実施
Ⅲ 開かれた学校	Ⅱ (2)	入学者における市内生の割合	25.0%	30%
	Ⅲ	新規開拓連携企業数	-	5
Ⅳ 支える基盤	Ⅲ	各種事業における生徒満足度 (事業実施後アンケートによる)	-	各事業 80%
	Ⅳ(1)	ノースセーレム高校交流(隔年相互派遣・受入)による生徒満足度	-	90%
	Ⅳ(2)	生徒会の主体的な学校行事運営による生徒満足度	-	90%
	Ⅳ(3)	生徒事故発生件数	0 件	0 件
	Ⅳ(3)	学校評価アンケートの項目「子どもの学校生活について困ったことがあるときに、教員に相談しやすい。」の肯定率	73.8%	80%
	Ⅳ(3)	生徒の意見を取り入れた校則等の見直し	-	実施
	Ⅳ(4)	超過勤務(年 360h 超)教員数	10 人	0 人
	Ⅳ(4)	教職員への研修実施回数	年 17 回	年 17 回